

## 年度末報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年3月30日
- 事業名 : 市域広域包摂的なみまもり・つながり構築事業
- 資金分配団体 : 認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ
- 実行団体 : 一般社団法人タウンスペース WAKWAK
- 新型コロナウイルス対応緊急支援助成（通常枠での追加助成）の有無 : 有 無

### ① 実績値

#### 【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
1. 市内の居場所間（子ども・障がい・高齢・外国人支援団体等）×行政等で支援のノウハウを共有でき、支援をしあえる仕組みを生み出す。	プラットフォームの構築のためにネットワーク化を図った団体数	20 団体	2024年2月	57 団体、108 名	1
2. 要援護者等、必要とする家庭に食支援の仕組みを構築する	プラットフォームを拠点に実施した食材等の配布数	50 食/回×週1×2年間=6,000 食	2024年2月	2 か年目に計画していた事業であるが前倒しして初年度実施	1
3. 要援護者等、必要とする家	プラットフォームを	50 世帯/年×1 年間	2024年2月	3 か年目に計画していた事業であ	2

庭に学びの支援の仕組みを構築する	拠点に実施した学習支援の対象世帯数	=50 世帯		るため計画どおり進んでいる	
4. 市内の要援護者の状況をデータとして可視化する	データとして可視化した要援護者の数	要援護家庭 250 世帯	2024 年 2 月	アンケートは実施していないが大学の研究者等々との事業評価を実施し、その結果を行政へ提示した。	2
5. 地域支援に携わる大学生・子育て層の人材が増加する	地域支援に携わる大学生・子育て層・保育士 OB 等の人数	①保育士 OG のべ 45 人 ②子育て層のべ 45 人 ③大学生 40 人	2024 年 2 月	①保育士 OG 11 人 ②子育て層 30 人 ③大学生 8 人	2
6. 地域支援に対し興味・関心を持ち、携わる子どもたちが増加する。	公教育との協働において ESD 教育を実施した学校数	ESD 実施校 10 校	2024 年 2 月	次年度以降に普及していくためのカリキュラムを学校、大学との協働により作成した。	2
7. 当地区の協働実践の知見をまとめた成果物ができる。	①地域内外への機関紙や報告書の配布数	①機関紙の発行 年 4 回 ②報告書の発行 年ごとに 1 冊 ③書籍の発行 1 冊	①②は 2022 年 3 月・2023 年 3 月・2024 年 3 月 ③は 2024 年 3 月	①機関紙 3 回 ②報告書の発行 1 冊（発行中） ③書籍の発行 1 冊	2

\* 進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
1.達成の見込み

## 2.アウトカムの状況

A：変更項目

変更なし 短期アウトカムの内容 短期アウトカムの表現 短期アウトカムの指標 アウトカムの目標値

## 3. 活動に関する報告

### 1. 多セクターとの共創の仕組としてインクルーシブコミュニティプロジェクトの立ち上げ

当法人が協働を行ってきた多セクターへ呼びかけ地域関係者、学校関係者、大学関係者（研究者、大学院生・学部生）等によるプロジェクトを発足し多セクターによる社会課題解決のプラットフォームを生み出した。

（富田地区インクルーシブ・コミュニティ・プロジェクトの構成・参画団体）

セクター	参画団体等
座長	大阪大学大学院人間科学研究科 教授 志水 宏吉
学識者	大阪大学大学院人間科学研究科 教授 渥美 公秀 大阪大学大学院人間科学研究科 教授 高田 一宏 関西大学文学部 教授 若槻 健 関西大学社会学部 教授 内田 龍史 平安女学院大学短期大学 准教授 新谷 龍太郎 助教 相楽 典子
弁護士	NPO 法人子どもセンターぬっく 代表 森本 志磨子
○地 域	富田まちづくりネットワーク、富寿栄老人会、社会福祉法人つながり、民生委員・児童委員
○大 学	大阪大学、関西大学、平安女学院短期大学 大阪大学人間科学研究科志水宏吉ゼミ、高田一宏ゼミの大学生及び大学院生
○企 業	阪急阪神ホールディングス株式会社
○学校	高槻市立第四中学校・赤大路小学校・富田小学校

	※学校による総合的な学習の時間「いまとみらい科」の協働
○オブザーバー	認定 NPO 法人全国子ども食堂支援センターむすびえ・ヒューファイナンスおおさか・社会福祉法人大阪ボランティア協会
○事務局	一般社団法人タウンスペース WAKWAK

※新設した当事業の座長に三木正博氏（平安女学院大学子ども教育学部元学部長）およびスーパーバイザーとして田村みどり氏（常磐会短期大学教員）を迎えた。

（プロジェクト会議）

	日時	場所 形式	参加者数	内容
第1回	2021年6月24日（木） 18時半～20時半	ZOOM	40名	① 顔合わせ・自己紹介 ② コミュニティ再生プロジェクト全体概要共有 ③ 富田エリア事業・市域エリア事業の方向性
第2回	2021年10月19日（火） 18時半～20時半	ZOOM	39名	① プロジェクト新メンバー紹介 ② プロジェクト進捗状況（事業中間報告） ③ 意見交流
第3回	2022年3月1日（金） 18時半～20時半	ZOOM	32名	① プロジェクト新メンバー紹介 ② プロジェクト報告・総括 ③ 事業に対する評価・意見交流 ④ 次年度以降のプロジェクトの方向性

○成果：プロジェクトの開催にあたっては新型コロナ禍、オンラインに切り替えつつも、PC の利用が難しい層には対面にも対応したことで多世代、多分野から合計40名が参加することができた。

## 2. 地域から広がる第三の居場所講演会の開催およびネットワーク準備会発足

【日時】2021年10月30日（土）13時～14時45分

① 講演会：13時～14時

講師：湯浅誠さん（全国子ども食堂支援センター・むすびえ理事長）

② 高槻市内子ども食堂団体シンポジウム：14時～14時45分

【対象】 子ども食堂・第3の居場所などに興味がある方

【定員】対面とオンライン（ZOOM）の併用で実施。

【参加者数】152名

【共催】一般社団法人タウンスペース WAKWAK・高槻市市民公益活動サポートセンター

※講演会では、市長及び市議会議長、市議会議員を招き、制度の必要性について理解促進を図った。

※講演会後に、ネットワーク準備会を開催し52名の参加があった。

### 3. 地域から広がる第三の居場所アクションネットワークの発足と実施

11月30日にアクションネットワークを発足、回を重ねながら表1のように名称や方向性等を決め、以下表2の通り年度内に4回開催した。初年度は市内の居場所間（子ども・障がい・高齢・外国人支援団体等）×行政等で支援のノウハウを共有でき、支援をしあえる仕組み（プラットフォーム）を生み出すことを最重点課題としていた。当初の予想20団体を大きく上回る57団体、108名の参画を得ることができた。また、分野も地域の諸団体や支援団体をはじめ学校、大学、企業、宗教関係、医療関係に至るまで分野を超えた包括的なネットワークを築くことができた。

（表1）ネットワークの趣旨、機能、方向性等

名称：「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」	
趣旨	高槻市内において子ども分野をはじめ多様な活動を行う団体、企業、大学、学校、行政、個人等の関係者が一同に会し、顔を合わせ、情報交流をする中でゆるやかなネットワークを築く。
会の3つの機能	①ネットワーク間の顔がつながる ②情報交流と助け合い

	③支援構築に向けたアクション
会の方向性	①「民」だからできるアクションを進めながら将来的には「官」（行政ほか）とも協働する ②コロナ禍、緊急性の高い社会的不利層への支援からはじめ様々な層へ広げる。 ③子ども分野からはじめ障がい、高齢、外国人支援分野等へ広げる。（包括的な支援）
具体的な動き	①団体さん同士それぞれの動き ヒト・モノの交流や協働等 ②事務局主導の動き

(表2)

<b>「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」</b>	
<b>① ネットワーク正式発足</b>	
日時	11月20日（土）13時半～15時
場所	高槻市現代劇場 206号室
形式	対面及びオンライン（ZOOM）のハイブリッド形式
内容	① 参加団体自己紹介 ② この会で大切にしたいこと・体制 ③ 情報交流
参加者数	39名
<b>② 第2回ネットワーク会議</b>	
日時	12月18日（土）10時～12時
場所	現代劇場 206号室
形式	対面及びオンライン（ZOOM）のハイブリッド形式
内容	① 参加団体交流会 ② 支援構築のための情報交流&助け合い ・団体それぞれの動き ・事務局主導の動き（フードパントリーサテライト構想）

	③ 今後の開催方法について ④ 事務連絡 ・メーリングリストの開設 ・ズーム・メーリングリスト使い方講座実施について
参加者数	36名
<b>③ 第3回ネットワーク会議</b>	
日時	1月18日(火) 10時~12時
形式	オンライン (ZOOM) 開催 対面サテライト会場：コミュニティスペース NikoNiko・協働プラザ・平安女学院大学
内容	① チェックイン・新メンバー紹介 ② 支援構築のための情報交流&助け合い ③ 会の名称、趣旨、方向性等の再確認 ・団体それぞれの動き ・事務局主導の動き (フードパントリーサテライトの企画背景および実際の支援の様子) ④ 事務連絡
参加者数	37名
<b>④ 第4回ネットワーク会議</b>	
日時	3月12日(土) 10時~12時
形式	オンライン (ZOOM) 開催 対面サテライト会場 (NikoNiko、平安女学院大学、協働プラザ、西法寺)
内容	① チェックイン・新メンバー紹介 ② 支援構築のための情報交流・助け合い

	③ 今年度事業の動きと今後について ④今後の方向性についての意見交流（グループワーク）
参加者数	42名

#### 4. フードパントリーサテライトの実施

食の支援については2か年目の構想であったが、新型コロナ禍において社会的不利を抱える層により不利がかかり食の支援の必要性が増大していることから市内の3か所（公営住宅を含む困窮層が多いエリアにおいて先行実施）においてフードパントリーサテライトを構築し各地域の民生委員やNPOの代表等およびネットワークでつながった団体とコラボし支援の食支援を行った。2か所は1月より週1ペースで3月末まで実施、1か所は月1回で1月より3月末までで3回実施。

#### 5. 子育て層対人援助職の担い手研修の実施

同事業と並行して厚労省事業支援対象児童等見守り強化事業（高槻市子どもみまもりつながり訪問事業）を高槻市から受託し市立の保育所の所長経験者等のベテラン保育士9名および子育て層30名の担い手を発掘し、事業実施と並行して担い手の育成研修（連続講座）を行い対人援助職としての専門性の向上を図った。同事業の完了後も担い手の育成研修を継続して実施しており地域支援に携わる人材の継続育成を図っている。

#### 6. 公教育および大学との協働によるESDカリキュラムの作成

富田地区にある中学校および小学校と総合的な学習の時間「いまとみらい科」において協働した実践についてまとめカリキュラムとして作成を行った。（アニュアルレポートとしてまとめた。）今後、カリキュラムの普及及び市内の他校での実践を図る予定。

#### 7. 大学との協働および学術研究

##### ①大阪大学との共創知を生み出す取り組み

実践および研究を深めるべく2019年にOOS協定を締結した大阪大学とコミュニティ再生事業等に取り組み、その実践を報告書にまとめるなど共同研究を行った。



※OOS（大阪大学オムニサイト）とは：「共創知」を生み出す場をテーマに産官社学連携により、共生社会を創造していくための新たな仕組。

### ②大阪大学国際共創大学院独創的教育研究活動賞の受賞

当事業における多セクターとの協働による実践について大阪大学国際共創大学院より独創的教育研究活動賞を受賞した。

○研究名：「多セクターの共創による社会的不利を抱える家庭の要支援状況の可視化によるソーシャルアクション - 大阪府高槻市における多文化共生コミュニティづくりにおける実践と研究の往還 - 』。」

### ③学識者等事業評価の実施

当事業に学識者として関わる大学の研究者による事業評価会議を以下のとおり実施し事業の評価及び社会的意義について検討、その結果を実践報告やアニュアルレポートとしてまとめ高槻市に提出、協議を行った。なお、高槻市において支援対象児童等見守り強化事業について次年度継続および対象年齢を拡大し実施することが決まり当事業がめざした要支援状況の可視化による制度の継続及び拡充の一つが実現化された。

高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業 学識者事業評価会議	
日時	1月24日（月）18時半～20時半
形式	オンライン（ZOOM）
メンバー	・研究者：志水宏吉（大阪大学教授）、高田一宏（大阪大学教授）、若槻健（関西大学教授）、内田龍史（関西大学教授）新谷龍太郎（平安女学院大学准教授）、相楽典子（平安女学院大学准教授） ・WAKWAK事務局

### 6. 新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点

多セクターが集まる会議やイベント等においてオンラインに切り替えつつもパソコンが苦手な層に対しては対面で会を実施するなどをしたほか、市域各所に参画団体の申し出により対面参加のサテライト箇所を設け感染拡大を防ぐため移動距離を減らしつつかつ多世代、多分野の方々が参加できる仕組みを構築した。また、ZOOMの使い方講座なども開催しフォローアップを行った。また、アクリル板の設置や消毒や換気の徹底などを常時図った。

### ③ 広報に関する報告

1. シンボルマークの使用状況
<input type="checkbox"/> 自団体のウェブサイトに表示している <input type="checkbox"/> 広報制作物に表示している <input checked="" type="checkbox"/> 報告書に表示している <input type="checkbox"/> イベント実施時に表示している <input type="checkbox"/> その他 →「その他」を選択した場合は記載してください（自由記述）：
2. 広報
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等） <b>①政府広報【子どもたちの未来のために～地域に根ざす支援の現場～】</b> ○テレビ朝日（地上波） 2021年9月18日(土) 午前11時～放送・BS朝日 9月19日(日) 午後1時～放送 ○テレビ朝日のホームページ <a href="https://www.tv-asahi.co.jp/kodomo_mirai/">https://www.tv-asahi.co.jp/kodomo_mirai/</a> ○内容：新型コロナ禍における子どもの居場所づくりについて多セクターの包括支援の視点から取材 ○番組HPより：コロナ禍で孤立が進む今。子どもたちの暮らしと学びを支える草の根活動が全国に広がっていると言います。そこで、つるの剛士がその支援の現場を訪ねます。東京都豊島区『いけいけ子ども食堂』の活動と人々の想いを取材。また、板橋区『地域リビングプラスワン』で行われているのは、『おうちごはん』という取り組み。さらに「学び」に対する活動について探るため、 <u>大阪府高槻市富田町の『コミュニティースペース NikoNiko』</u> へ。子どもたちを支える活動を通し、日本の未来を見つめます。 ○依頼元：内閣府  <b>②NHK Eテレバリバラ「水平社100年」</b> ○「バリバラ」水平社宣言100年(1)「人間は尊敬すべきものだ」 ・第1回：3月3日(木)午後8:00                    ※再放送 6日(日)午前0時(土曜深夜) ○「バリバラ」水平社宣言100年(2)「人の世に熱あれ 人間に光あれ」 ・第2回：3月10日(木)午後8:00 放送予定    ※再放送 13日(日)午前0時(土曜深夜) ○番組公式ホームページ <a href="https://www.nhk.jp/p/baribara/ts/8Q416M6Q79/episode/te/KNX4361X2K/">https://www.nhk.jp/p/baribara/ts/8Q416M6Q79/episode/te/KNX4361X2K/</a>

○内容：部落問題を中心にした取材。部落問題をはじめ様々な社会課題（社会的孤立）などをどうまちづくりにより超えていくのかを出演の際に語っている。

○番組 HP より：「過酷な部落差別があたりまえだった100年前に誕生した水平社宣言。人間は同情や哀れみの対象ではなく、尊敬すべき存在だと訴えた宣言の理念は、いまでも輝きを失っていない。番組では水平社誕生の歴史を通して、宣言の意義を考える。スタジオには被差別部落出身者など当事者が大集合。当事者が声をあげる意義・支えることの大切さ、「自分を好きになること」など、理不尽な壁にぶつかっているすべての人たちに熱と光を届ける！

○依頼元：NHK

## 2.広報制作物等

### ①アニュアルレポートの作成

#### ア. 居場所の包括連携によるモデル地域づくりアニュアルレポート

当実践をアニュアルレポートとして作成した。

- ・第1部 事業の様子
- ・第2部 理論編（大学研究者による当事業の社会的意義について）・実践報告論文

○発行時期：2022年3月31日

○部数：1500部

#### イ. インクルーシブコミュニティ・プロジェクト・アニュアルレポート『未来にわたり住み続けたいまち』

- ・ESDのカリキュラムの掲載

○発行時期：2022年3月31日

○部数：1300部

### ②機関紙 WAKWAK 通信による実践の広報

当法人が毎年発行している機関紙「WAKWAK 通信」において当事業の特集を組み2021年5月、9月、2022年3月の3回、各1500部発

行し

関係機関等への実践の広報を行った。

### 3.報告書等

#### ①書籍『子どもと家庭を包み込む地域づくり』（晃洋書房）

- ・ 編著：谷川孝至・岩槻知也（京都女子大学）・著書：幸重忠孝・村井拓哉さん・鈴木友一郎・岡本工介（当法人事務局長）
- ・ 内容：当法人の子どもの居場所づくり事業について執筆
- ・ 詳細：HP より（すべての子どもと家庭にウェルビーイングをもたらす地域づくり）

ボランティア組織，社会福祉協議会，こども食堂，学校，児童相談所，地方自治体，国……様々な機関が連携して住民が主役となる地域づくりのモデルを紹介し，展望する。

第一部では，地域づくりの先進的で特徴的な取り組みを展開している地域＝沖縄県（内閣府からの補助金），滋賀県（社会福祉協議会の挑戦），明石市（市長の政策展開），大阪市西成区（ボランティア組織の活躍）を紹介する。

第二部では，実際に地域づくりに取り組んでいるボランティア組織の実践家が，組織のミッションや取り組み，外部からはなかなか見ることの難しい地域づくりの内実など，その活動のリアリティを描く。

### 4.イベント開催等（シンポジウム、フォーラム等）

#### ・地域から広がる第三の居場所講演会の開催

【日時】 2021年10月30日（土）13時～14時45分

① 講演会：13時～14時

講師：湯浅誠さん（全国子ども食堂支援センター・むすびえ理事長）

② 高槻市内子ども食堂団体シンポジウム：14時～14時45分

【対象】 子ども食堂・第3の居場所などに興味がある方

【定員】 対面とオンライン（ZOOM）の併用で実施。

【参加者数】 152 名

【共催】 一般社団法人タウンスペース WAKWAK・高槻市市民公益活動サポートセンター

#### ④規程類の整備に関する報告

1. 事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。

完了 整備中

2. 整備が完了した規程類を web サイト上で広く一般公開していますか。

全て公開した 一部未公開 未公開

→ 「一部未公開」「未公開」を選択した場合の理由と公開予定日：

3. 変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。

はい いいえ

→ 「いいえ」を選択した場合の理由：

#### ⑤ガバナンス・コンプライアンスに関する報告

1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。

はい いいえ

→ 「いいえ」を選択した場合の理由：

2. 内部通報制度は整備されていますか。

はい いいえ

→ 「はい」の場合の設置方法（複数選択可）：内部に窓口を設置 外部に窓口を設置  JANPIA の窓口を利用

3. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。
<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ → 「いいえ」を選択した場合の理由：
4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか
<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ → 「いいえ」を選択した場合の理由：
5. コンプライアンス委員会は定期的を開催されていますか。
<input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ → 「いいえ」を選択した場合の理由： 担当者に報告の対象となる不正行為があった際には資金分配団体に報告する旨を周知・徹底している。
6. 報告年度の内部監査又は外部監査を実施予定ですか。(実施済みの場合含む)
<input checked="" type="checkbox"/> 内部監査を実施 <input type="checkbox"/> 外部監査を実施 <input type="checkbox"/> 実施する予定がない → 「実施する予定がない」を選択した場合の理由：

#### 添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）



地域から広がる第三の居場所講演会 第1部



地域から広がる第三の居場所講演会 第2部



地域から広がる第三の居場所ネットワーク会議



フードパントリーサテライト